

さそり座は「天の赤道」よりも南側に位置します。「天の赤道」というのは、「天の北極」（北極星の近くの赤緯+90度の位置）と「天の南極」（赤緯-90度の位置）のどちらからも最も遠い、天球を一周する仮想線（赤緯0度の線）です。地球上の「赤道」の真上の天球（天頂）が「天の赤道」ということです。天の赤道よりも南の星座は、南半球ではより見やすくなりますが、日本では北の地方ほど観望が難しくなります。たとえば東京（北緯35度）では、赤緯-55度よりも南の恒星（たとえば南十字座）は観望できません。

小学校の教科書でも扱われている「さそり座」は、赤緯-10度～-45度に位置する星座なので、関東地方でも

全貌を観望可能です。しかし、一番南側の「さそりの尾」の部分は、南中時でも地平高度10度しか昇らず、都市部では見えないこともあります。

さそり座は「夏の星座」ですが、今の時期でも深10時頃になると東の空から昇ってきます。更に深夜から未明にかけては南中して、全貌を見られます。写真は北軽井沢から東の空を写したものです。山の向こうが明るいのは高崎市や前橋市の灯火の影響です。

（2024年5月上旬／北軽井沢）

